

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和5年3月4日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500052		
法人名	株式会社グレイトホーム		
事業所名	グループホームいとが		
サービス種類	認知症対応型生活介護		
所在地	和歌山県有田市糸我町43-3		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受日	令和5年3月10日

### 【事業所基本情報】

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=t rue&JigyosyoCd=3091500052-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=t rue&JigyosyoCd=3091500052-00&ServiceCd=320&Type=search)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和5年2月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長く入居され、ご高齢になられた利用者様も多くなってきたので、訪問看護ステーションとの新たな契約により、利用者様の健康サポートに力をいれています。医療との連携により、看取りもさせて頂くようになりました。新型コロナウイルス感染症の予防の為、ご家族との自由な面会ができていませんが、月次報告書により健康面・精神面・日頃の生活の様子など解りやすく書面により報告させていただいています。又、県内の感染状況に応じて、玄関フロアでの短時間の面会交流なども適切に実施させて頂いています。当施設では新型コロナウイルスでの利用者様の感染がまだ一人も出ていない状況で、今後もこの状態をできるだけ維持していきたいと努力しております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームいとがは、介護理念を職員間で共有し、利用者の気持ちや心に寄り添ったケアを心がけ、理念が実践できるように取り組んでいる。食事の献立は、利用者の好き嫌いを考慮して、また食事が重ならないようにその日の料理を決めている。また、食材の下ごしらえや、近くの無人販売所での野菜の購入などを職員と一緒にいき、利用者のできることを活かした支援をしている。気候の良い時は、近隣を散歩したり、梅畑や合鴨農法の田んぼの様子を見に行くなど季節感が持てるように心がけている。コロナ禍のため、人混みを避けて空いた時間帯にコンビニエンスストアに出かけるなど、外出の機会を設けている。日中はトイレでの排泄を主とした介助を行い、夜間は利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。糸賀保育園の園児に利用者と一緒に作成したマスクを寄付したり、ふれあいルーム(糸賀公民館)には同様に利用者と一緒に作成したアクリルたわしを寄付するなど、コロナ禍ならではのアイデアで利用者と共に地域に貢献する取り組みを行っている。入居前のかかりつけ医を継続して利用でき、訪問診療の受入れも行っている。通院には職員が付き添い、日頃の利用者の状況を伝えるなど医療機関と連携を図っている。医療機関と24時間連携がとれ、看取り介護ができる体制を構築している。備蓄品には食糧や水を4日間程度、ガスコンロやガスボンベを備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が共有理念である「グループでつくるあったかホーム。いつも隣に友がいる。がんばる私とあなたの心」を常に心がけ、単に言葉での標語ではなく、日々の業務に活かせるよう取り組んでいます。標語はホーム内の玄関フロアに掲示しており、実践しています。	事業所開設当時からある法人理念と職員間で作成した介護理念がある。新任研修にはこれら理念等を学ぶ機会を設けている。管理者は日頃から理念等に基づいた視点からケアを行う上で互いに注意し合うことなどを説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の秋祭りや神社・仏閣の行事にも積極的に参加をしていました。コロナ流行後は地域の行事も縮小されましたが、施設への訪問もしてくれるので見学させてもらっています。自治会・老人会の方々とも相互に交流を図れています。また、人込みを避けて買い物に出かけたり田園地帯であるので人と人の接触を避けて散策しています。	自治会に加入し、回覧板を回したり、職員が用水路の清掃活動に参加している。令和2年には糸賀保育園の園児に利用者と一緒に作成したマスクを寄付したり、ふれあいルーム(糸賀公民館)には同様に利用者と一緒に作成したアクリルたわしを寄付するなど、コロナ禍ならではのアイデアで利用者と共に地域に貢献する取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議にて事例の紹介や認知症への理解を求めるための勉強会、小学校からの体験学習の受け入れ等してきましたが、現在は保育所に小さな子供用のマスクを縫ったり、公民館活動への参加としてアクリルたわしを編み提供しました。お礼のお手紙や絵をいただきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からは行事や利用者の現状報告をし、参加者からは評価や助言を貰っています。また、認知症の方への理解が得られるような場としていましたが、コロナ以後、開催は少なく、充分ではありませんが、大雨、台風などで被害が出そうときには一早く避難所の設置場所を連絡頂けています。	運営推進会議の開催に管理者は意欲的ではあるものの、令和2年1月の開催を最後に開催していない。	地域と事業所の連携を図る上で運営推進会議の開催意義は大きく、書面による開催やリモート開催などの形式を問わず、速やかな運営推進会議の開催を期待したい。

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市や町の介護課担当者から空室状況の問い合わせをもらったり、事業所からは実情報告や相談を持ちかけるなど、情報共有を図り、連携を深めるように努めています。</p>	<p>毎月、利用者の様子や空き状況の報告に担当課を訪問する機会が多い。また、介護度の見直しに地域包括支援センターを訪問する機会も頻繁にあり、行政との協力関係の構築に取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>代表者及び全職員が内部研修や外部研修を通じ、言葉の拘束や薬での抑制などを含む身体拘束の正しい理解に努めています。また、日中玄関は施錠をせず、自由に入出りができる環境や、外付けのカメラにより徘徊防止の為の設備も整えました。</p>	<p>身体拘束が必要なケースについては家族の同意を得ている。また随時開催しているケア会議において利用者個々の身体拘束について話し合っている。時事的なケースについても資料を閲覧するなどにより、身体拘束の理解を深めている。施錠は日中は一切行っていないため、外出願望等のある利用者には、職員が付き添って外出している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修への参加やミーティング内での関連法などの研修を行い、学ぶ機会を設け、知識や意識向上に繋げていましたが、コロナ流行以後はできていません。今までの研修報告などに再度目を通すことと、世の中で起きている事例を参考に学んでいます。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>狭いミーティングルームでの会議はコロナ流行後感染予防からも好ましくない為、職員そろっての研修はできていませんが、新規に入居された方が直面している問題点、主に権利擁護に関する事例を学び情報の共有をしています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には重要事項・契約書に基づいて十分な説明を行い、理解し、納得・同意の上で契約しています。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に意見箱を設置しています。家族の来訪時に直接入居者の状況報告をし、家族から要望や意見をお聞きしています。入居者からは日々のかかわりの中で要望や意見を聞き出せるように心がけ、それらを現場で直ぐに活かせるよう各階ごとの申し送りノートに記入し、ケアに反映させています。</p>	<p>家族からの意見の聴き取りは主に管理者又は代表者が行っている。聴き取った内容は申し送りノートに記録し、職員に伝達している。また、家族への請求書発送の際に1か月間の利用者の暮らしぶりを書いた手紙を同封している。利用料は、敢えて事業所での現金支払いにしており、家族からの意見等を聴く機会を持てるよう工夫している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映          代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>新型コロナウイルス流行に伴い、ミーティングができない状態ですが、各階に申し送りノートを設置して提案・意見・情報を共有するためのツールとして使っています。</p>	<p>日頃から職員が気軽に意見等を出し合える雰囲気づくりを心がけており、特に行事については活発な意見交換を行っている。その他物品等の購入など必ずしも職員の意見に沿った対応はできないものの、概ね職員からの要望等を運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備          代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>昇給や賞与で職員個々の努力や実績を反映させたり、職員の希望休暇や休憩場所の環境設備など、柔軟な対応に努めています。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み          代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修のみならず、外部研修参加の機会も設けていますが、新型コロナウイルス流行の事態を踏まえ、外部研修の参加については慎重に検討している。職員個人のスキルや資格取得に関する研修には資料を取り寄積極的に取得できるように努めています。金銭の補助体制も検討しています。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域密着型サービスケアネット和歌山に加盟し、交流の機会を設けています。</p>	/	/

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には入院先やご自宅を訪問し、本人の思いなどをじっくりと聞くようにし、できる限り不安なくサービスを利用して頂けるように努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回相談時から家族の思いなどを十分に聞き取り、できる限り不安なくサービスを利用して頂けるように努めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容を聞き取りながら入居に対する迷いやご本人の状態がまだ、居宅で過ごせるような場合などが感じられた時には現状で利用可能なサービスなどの情報提供や連絡調整などを行うようにしています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は本人ができることはして頂き、できないことをさりげなく支援し、暮らしを共にする者同士であるという姿勢を常に意識しています。本人からの「世話になるの～」などの言葉が聞かれた時には「お互い様やで。私も〇〇さんにお世話になっているよ」などの会話が聞かれます。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月の月次報告以外にも電話や来訪時に利用者の報告をしたり、私たちは家族の代わりにはなれないけど、家族の次に信頼されるような間柄になりたい事を常に伝え、信頼関係の構築に努めている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談・協力して友人、知人との面会や金融機関などへの外出のサポートなど、これまで接してきた人や場所との関係性を継続できるように支援していますが、面会などは施設玄関ロビーにて感染対策を徹底して時間の制限を設けて実施しています。	元仕事仲間や釣り仲間などの利用者の知人や友人が来所することがあり、事業所の玄関で15分間の時間制限を設けて面会を可能にしている。馴染みの場所への訪問については管理者又は代表者が同行しており、元金融機関支店長だった利用者を元の職場の協力を得て、当時の出勤の再現を行うなど、利用者本位の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の表情や雰囲気などを感じ取るように意識し、状況に応じた対応を行いながら円滑な関係が築けるように働きかけています。居心地の良い環境作りも心がけており、他の階からの訪問もありカラオケなども楽しんでいます。また、女性陣の間では塗り絵・折り紙・編み物といったそれぞれの得意分野で活躍してもらっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長年入居されていた方のご家族とは退去後も折にふれ交流があります。農産物を持ってきて頂いたり、当施設から病院に移られた方の様子などは病院関係者から様子をお伝え頂くこともあります。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から利用者の希望や意向の把握に努めています。食べ物の好みや欲しいものはないか、困っていることはないかなど、問いかけており、誕生日のプレゼントに反映させたり、疎通困難な場合は家族からの聞き取りを参考にしたりして、生活歴から本人本位に検討しています。	職員が聴き取った利用者の意向等は、経過記録に記入し、全職員が閲覧することで周知を行っている。聴き取りが困難な利用者には、アセスメントの内容と日々の支援の中で察した思いなどを総合的に判断している。また、過去の職歴や趣味なども参考に、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居の際、本人の生い立ちからお元気な時の生活歴などは家族から。介護サービスの利用状況や、入院中の様子については個々の担当者から情報を頂き、職員一同共有しています。		

25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の関わりの中から利用者の現状把握に努め、些細な変化や新たな発見の気づきがあれば職員間の申し送りノートに記入したり、アイパットの各項目から把握するなどをしています。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>第一に「本人が望む暮らし」。家族の意向を確認し、健康面・精神面で必要な場合はかかりつけ医に状況報告・相談しそれらを職員間で情報共有・カンファレンスを行い介護計画に繋げています。計画作成以降も状況が変化した場合、は柔軟に対応を心がけています。カンファレンスは家族・医療関係者・福祉用具等各方面の参加が望ましいですが、現況から参加者は施設職員のみとなっています。</p>	<p>介護計画は原則として、初回は3か月後、それ以降は6か月後に見直している。モニタリングは適宜実施している。カンファレンスでは管理者と職員が意見を出し合い、それらにあらかじめ聴き取った医療関係者や家族の意見を反映させた介護計画を作成している。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>手書きの個別記録の他、できるだけ詳細にアイパットの記録も利用して情報の共有をしています。問題点は速やかに取り組み、是正できるようにしています。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者本人や家族の要望にはできるだけ応えられるように対応しています。複数医療機関への受診介助や買い物支援などが主ですが、単独型のホームであるため、対応困難ケースが発生した時には自治体や他事業所との連携で支援しています。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員、自治会、老人会、公民館、派出所などの地域にある資源との協力体制は整備しており、必要に応じて連携しやすい状況にあります。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>契約時に本人や家族の要望を聞き取り、受 診の支援をさせていただいています。家族・ 主治医・事業所は報告・連絡・相談で連携を 取りながら適切な医療を受けられるように支 援しています。原則として同市・郡内の医療 機関には送迎・付き添いを行うことになっ ていますが、例外としての他市への介助も行っ ています。</p>	<p>事業所では、協力医療機関の訪問 診療だけでなく、従来からのかかりつ け医の訪問診療も受け入れている。 通院には職員が付き添い、日頃の利 用者の状況を伝えるなど医療機関と 連携を図っている。診察結果は職員 間で共有を図り、家族等には重要な 事柄は随時報告し、それ以外は毎月 の報告書で連絡している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている</p>	<p>主治医等、協力医療機関には利用者の状況 を速やかに報告し、迅速に支持を頂くなど連 携は密にとっています。又、訪問看護ステー ションとの契約により、日々の健康管理や緊 急時の対応にも応じることができ、看護職と の協働が図れるようになりました。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療機関、近隣病院の医療連携室との 連携は図れており、情報交換や相談など円 滑に行えます。入院時にはその直前1か月 間のバイタルや経過の記録と共にケアマネ のアセスメント表なども提供しています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時には重度化・終末期において可能な ケアや対応を説明しております。入居後も状 況の変化は毎月の報告書に記載し、状況次 第では来訪して話し合いをもつなど、対応し ています。その結果として主治医や訪看と共 にチームで支援に取り組んでおります。看取 り体制も完備しております。</p>	<p>看取りのニーズに対応するため、医 療機関と24時間連携が取れる体制を 構築している。利用者や家族の意向 を聴き取り、話し合いの機会を設け ている。入居時に「医療的ケア提供 に関する同意書」に基づいて重度化 や終末期での対応の説明を行い、同 意を得ている。2年以上前に看取りの 実績がある。</p>	<p>利用者の重度化や看取りに対応でき る事業所として、職員の教育を含め て、事業所全体で利用者及びその家 族をサポートできる体制を整えていく ことを期待したい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアル、緊急連絡体制を整 備し、契約した訪看ステーションは緊急の対 応にも応じてくれます。又、職員の心肺蘇生 講習・AED装置の設置及び訓練等を通じ て、いつでも実践できるように努めていま す。</p>		



35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対応マニュアル整備に加え、地域全体で行われる災害・津波等の避難訓練にも職員が参加しています。管理者・職員は実際に地域の避難道を歩き、避難の際の問題点などを話し合っています。又、電気。水道などのライフラインが止まった時を想定して食事・排泄等をどのようにすれば良いかなど、実践訓練を行っています。	災害時に地域住民の協力が得られるように連携を図っている。水害の可能性があり、垂直避難訓練を想定しているが、防災訓練は行っていない。備蓄品には食糧や水を4日間程度、ガスコンロやガスボンベを備えている。	事業所に義務づけられた防災訓練を、夜間想定を含めて、少なくとも年に2回実施できるよう、取り組みに期待したい。
----	----	--	--	---	--

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には入社研修時に人格尊重とプライバシーの重要性について、意識づけを図り、守秘義務についての誓約書を提出してもらっています。利用者への言葉使いや、声掛けにおいて充分注意して対応しています。しかしながら利用者への呼びかけはその人が受け入れやすい名前を選ぶこともあります。(同じ地域では同姓の場合もよくあります)	管理者は職員に日頃から接遇について指導を行っているが、定期的な研修は行っていない。個人情報や漏洩しないようにフロア内には職員の個人のスマートフォン等の持ち込みを禁止する等の管理を行っている。フロア内にあるカルテラックに利用者ファイルを置いている。	日頃の指導も大切であるが、職員の理解を深めるためにも定期的な研修を行うことを期待したい。また、個人が特定されるファイルは、必要時以外は鍵の掛かる書庫に格納することが望ましい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者との関係性を大切にし、利用者が思いや感情を訴えやすいような関係性を築くようにしています。又、利用者の能力に応じた自己決定し易いような声掛けを基本としています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは決して無理強いすることなく、一人ひとりのペースに合わせて自由に過ごして頂く。例えば起床時間などもその日のその人のペースで、又、みんなで一緒に過ごす時間も作っています。他の利用者に迷惑のかからない事であれば基本的に自由です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や身だしなみは本人の希望を尊重し、必要に応じて化粧水乳液などの購入も支援しています。又、新聞の折込チラシをみて通販で購入される方もおられ、家族に了解を得るなど、適切に支援しています。訪問美容師による散髪やカットも行っています。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日常の食事準備の一連の作業を共に行っています。旬の食材や地域の特産物を献立に入れたりして季節を感じてもらっています。コロナ中で外食の機会はなくなりましたが、デリバリーで握り寿司やハンバーガーなど希望があれば取り入れています。</p>	<p>献立は特に決めておらず、利用者の好き嫌いを考慮して、また食事が重ならないように、その日の料理を決めている。豚まんやシューマイ、おやつなど手作りで食が楽しめるように工夫している。利用者は一人ひとりの能力に応じて、職員と一緒に、料理の下ごしらえをしたり、近くの無人販売所に食材(野菜)の買い出しに出かけている。またベランダで旬の野菜を栽培し、料理に取り入れることもある。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量のチェック表を用いて個々の状態を見ながら必要量の確保ができるように一日量の把握をしています。量が分かりやすいように全員コップ、お茶碗等同じものを提供させてもらっています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、歯磨きはしてもらっています。自分で磨けない人は職員が介助し、その人に応じた口腔ケアを行います。義歯のある人は定期的に洗浄剤で除菌し、口腔内は歯科衛生士が適時みています。必要であれば歯科医院への受診も支援しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表に記入し各自の排泄パターンを把握しています。オムツ使用や尿意のない方でもトイレに誘導し、排泄の自立に向けた支援をしています。又、状況を見て可能であれば積極的に段階的なオムツ外しも試みています。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせて、日中はできる限りトイレで排泄ができるよう取り組んでいる。夜間はトイレへ行く利用者もいるが、睡眠を重要視しており、4時間ごとにオムツ交換を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事では野菜や海藻等工夫して摂ってもらうようにしています。散歩や室内で体を動かすレクリエーションをしたり、緩下剤の使用にあたり、かかりつけ医に排便状況を報告・相談しながら対応しています。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>最低、1週間に2回は入浴できるように曜日を指定していますが、個々のその日の体調を確認したうえで入浴の声掛けをして実施しています。又、曜日にこだわらず、利用者が希望すればいつでも入浴できるように配慮しています。冬至には地域の方からの頂き物で柚子風呂に入ります。</p>	<p>基本的に週に2回、午前中を入浴時間としている。利用者によっては、毎日入浴する人もいるが、午後の対応になる場合もある。浴槽は個浴であり、常時かけ流しをしているため、利用者ごとの湯の入れ替えはしていない。入浴剤やゆず風呂で香りを楽しみながら入浴できるように工夫している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床や就寝時間は利用者の生活習慣に合わせており、休息や睡眠をとれるようになっています。居間や自室でテレビを観られる方や編み物、読書をされる方など自分なりの過ごし方をされます。夜間の水分補給はペットボトルにお茶を入れて就寝前に配っています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個別ファイルに服薬内容の情報を添付、アイパッドにも記載されており、薬の変更、服薬後の症状の変化の記載事項があれば診療報告書や申し送りにより全職員がその内容の把握の徹底をしています。誤薬提供がないように現在のシステムを皆で考え実行しています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の生活歴や性格などを考慮し、日々の関わりの中で得意、不得意も見極め、家事その他の役割分担をお願いしています。嗜好品については毎日のおやつ提供以外にもご家族からの差し入れや利用者の要望も加えて準備させて頂いています。週に1度、移動販売車が来た時に嗜好品の買い物をする方もおられます。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ前には個々にご家族との外出・外泊もできていましたが、現在は自粛して頂いており、ご本人たちへの支援として近所の無人販売や鴨農法の田んぼの見学、込み合わない日時を選んでの洋服や趣味の物の買い物支援をしています。</p>	<p>気候の良い時は、職員と一緒に近隣を散歩している。鉄道公園、花見、梅畑や合鴨農法の田んぼの様子を見に行く等、コロナ禍でも外出の機会を積極的に持ち、季節感が持てるように支援している。人が密接とならない時間帯や場所を選んで買い物へ出かけ、趣味の品物や嗜好品を購入している。車いす対応の車両もあり、歩けない利用者も外出することができます。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居時に希望があればご家族の同意の上、ご本人に管理してもらっています。事務所でご家族から預かる場合もあり、能力に応じた支援等を行っています。又、ご本人の希望でATMまで同行する場合があります。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居時にご本人や家族の要望により携帯電話の所持をしている方もおられ、自由に連絡をとることができます。お手紙を家族や友人に書く方もおられ、暑中見舞いや年賀状も皆で書いたりします。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎朝、必ず居室の窓を開けて換気をし、室温・湿度の調整を行い、エアコンは定期的に業者による清掃も行っていきます。玄関ホールや居間には季節感を感じられるよう、観葉植物やツリー、リース等、職員と利用者で共に飾り付けを行っています。</p>	<p>季節ごとに手作りカレンダーを利用者と一緒に作成し、壁に飾っている。また日頃の風景やイベントなどの写真も壁に掲示している。食堂等の座席は固定しておらず、好きな席に座ることができる。イスも自由に動かせ、日向ぼっこやベランダで読書する等、居心地よく過ごせるように取り組んでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれが居心地よく過ごせるように利用者間の関係性に気を配り、円滑な関係作りをしています。共用空間には独りになれたり、気の合った人同士で過ごせる空間を作っています。気候の良い時にはベランダで読書する方などもおられます。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人が使用していた馴染みの 家具や子供、孫などの写真、色紙、花等が 居室に飾られます。又、誕生日には職員から の色紙とメッセージが送られ、それらも飾っ ておられます。自分で制作した折り紙やリ ースの作品もあります。居室の電灯はLEDで明 るさを調整できます。	エアコン、ベッド、寝具、カーテンは備 え付けである。家具の持ち込みは自 由であり、利用者の安全を考慮した 配置にしている。居室内で居心地よく 過ごせるように、空調は職員が管理 している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」 や「わかること」を活かして、安全かつで きるだけ自立した生活が送れるように工夫 している	歩行器・車いす使用の方も安全に移動しやす いようにローカの幅も広く、手すりも設置して おり、洗面台、カウンター等個々の身体機能 に合わせた危険防止に務め、それと並行し て自立できるように工夫しています。又、ト イレなども車いすでの使用介助もし易いよ うに広く、位置的にも見守りがしやすいよ うにしています。		

## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が共有理念である「グループでつくる あったかホーム。いつも隣に友がいる。がんばる私とあなたの心」を常に心がけ、単に言葉での標語ではなく、日々の業務に活かせるよう取り組んでいます。標語はホーム内の玄関フロアに掲示しており、実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の秋祭りや神社・仏閣の行事にも積極的に参加をしていました。コロナ流行後は地域の行事も縮小されましたが、施設への訪問もしてくれるので見学させてもらっています。自治会・老人会の方々とも相互に交流を図れています。また、人込みを避けて買い物に出かけたり田園地帯であるので人との接触を避けて散策しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は運営推進会議にて事例の紹介や認知症への理解を求めるための勉強会、小学校からの体験学習の受け入れ等してきましたが、現在は保育所に小さな子供用のマスクを縫ったり、公民館活動への参加としてアクリルたわしを編み提供しました。お礼のお手紙や絵をいただきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からは行事や利用者の現状報告をし、参加者からは評価や助言を貰っています。また、認知症の方への理解が得られるような場としていましたが、コロナ以後、開催は少なく、充分ではありませんが、大雨、台風などで被害が出そうときには一早く避難所の設置場所を連絡頂けています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市や町の介護課担当者から空室状況の問い合わせをもらったり、事業所からは実情報告や相談を持ちかけるなど、情報共有を図り、連携を深めるように努めています。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>代表者及び全職員が内部研修や外部研修を通じ、言葉の拘束や薬での抑制などを含む身体拘束の正しい理解に努めています。また、日中玄関は施錠をせず、自由に出入りができる環境や、外付けのカメラにより徘徊防止の為の設備も整えました。</p>		
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修への参加やミーティング内での関連法などの研修を行い、学ぶ機会を設け、知識や意識向上に繋げていましたが、コロナ流行以後はできていません。今までの研修報告などに再度目を通すことと、世の中で起きている事例を参考にし学んでいます。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>狭いミーティングルームでの会議はコロナ流行後感染予防からも好ましくない為、職員そろっての研修はできていませんが、新規に入居された方が直面している問題点、主に権利擁護に関する事例を学び情報の共有をしています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には重要事項・契約書に基づいて十分な説明を行い、理解し、納得・同意の上で契約しています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に意見箱を設置しています。家族の来訪時に直接入居者の状況報告をし、家族から要望や意見をお聞きしています。入居者からは日々のかかわりの中で要望や意見を聞き出せるように心がけ、それらを現場で直ぐに活かせるよう各階ごとの申し送りノートに記入し、ケアに反映させています。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>新型コロナ流行に伴い、ミーティングができない状態ですが、各階に申し送りノートを設置して提案・意見・情報を共有するためのツールとして使っています。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>昇給や賞与で職員個々の努力や実績を反映させたり、職員の希望休暇や休憩場所の環境設備など、柔軟な対応に努めています。</p>		



13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修のみならず、外部研修参加の機会も設けていますが、新型コロナ流行の事態を踏まえ、外部研修の参加については慎重に検討している。職員個人のスキルや資格取得に関する研修には資料を取り寄積極的に取得できるように努めています。金銭の補助体制も検討しています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域密着型サービスケアネット和歌山に加盟し、交流の機会を設けています。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には入院先やご自宅を訪問し、本人の思いなどをじっくりと聞くようにし、できる限り不安なくサービスを利用して頂けるように努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回相談時から家族の思いなどを十分に聞き取り、できる限り不安なくサービスを利用して頂けるように努めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容を聞き取りながら入居に対する迷いやご本人の状態がまだ、居宅で過ごせるような場合などが感じられた時には現状で利用可能なサービスなどの情報提供や連絡調整などを行うようにしています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は本人ができることはして頂き、できないことをさりげなく支援し、暮らしを共にする者同士であるという姿勢を常に意識しています。本人からの「世話になるの～」などの言葉が聞かれた時には「お互い様やで。私も〇〇さんにお世話になっているよ」などの会話が聞かれます。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月の月次報告以外にも電話や来訪時に利用者の報告をしたり、私たちは家族の代わりにはなれないけど、家族の次に信頼されるような間柄になりたい事を常に伝え、信頼関係の構築に努めている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談・協力して友人、知人との面会や金融機関などへの外出のサポートなど、これまで接してきた人や場所との関係性を継続できるように支援していますが、面会などは施設玄関ロビーにて感染対策を徹底して時間の制限を設けて実施しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の表情や雰囲気などを感じ取るように意識し、状況に応じた対応を行いながら円滑な関係が築けるように働きかけています。居心地の良い環境作りも心がけており、他の階からの訪問もありカラオケなども楽しんでいます。また、女性陣の間では塗り絵・折り紙・編み物といったそれぞれの得意分野で活躍してもらっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長年入居されていた方のご家族とは退去後も折にふれ交流があります。農産物を持ってきて頂いたり、当施設から病院に移られた方の様子などは病院関係者から様子をお伝え頂くこともあります。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から利用者の希望や意向の把握に努めています。食べ物の好みや欲しいものはないか、困っていることはないかなど、問いかけており、誕生日のプレゼントに反映させたり、疎通困難な場合は家族からの聞き取りを参考にしたりして、生活歴から本人本位に検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居の際、本人の生い立ちからお元気な時の生活歴などは家族から。介護サービスの利用状況や、入院中の様子については個々の担当者から情報を頂き、職員一同共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から利用者の現状把握に努め、些細な変化や新たな発見の気づきがあれば職員間の申し送りノートに記入したり、アイパットの各項目から把握するなどをしています。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>第一に「本人が望む暮らし」。家族の意向を確認し、健康面・精神面で必要な場合はかかりつけ医に状況報告・相談しそれらを職員間で情報共有・カンファレンスを行い介護計画に繋げています。計画作成以降も状況が変化した場合、は柔軟に対応を心がけています。カンファレンスは家族・医療関係者・福祉用具等各方面の参加が望ましいですが、現況から参加者は施設職員のみとなっています。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>手書きの個別記録の他、できるだけ詳細にアイパットの記録も利用して情報の共有をしています。問題点は速やかに取り組み、是正できるようにしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者本人や家族の要望にはできるだけ応えられるように対応しています。複数医療機関への受診介助や買い物支援などが主ですが、単独型のホームであるため、対応困難ケースが発生した時には自治体や他事業所との連携で支援しています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員、自治会、老人会、公民館、派出所などの地域にある資源との協力体制は整備しており、必要に応じて連携しやすい状況にあります。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に本人や家族の要望を聞き取り、受診の支援をさせていただいています。家族・主治医・事業所は報告・連絡・相談で連携を取りながら適切な医療を受けられるように支援しています。原則として同市・郡内の医療機関には送迎・付き添いを行うことになっていますが、例外としての他市への介助も行っています。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>主治医等、協力医療機関には利用者の状況を速やかに報告し、迅速に支持を頂くなど連携は密にとっています。又、訪問看護ステーションとの契約により、日々の健康管理や緊急時の対応にも応じることができ、看護職との協働が図れるようになりました。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関、近隣病院の医療連携室との連携は図れており、情報交換や相談など円滑に行えます。入院時にはその直前1か月間のバイタルや経過の記録と共にケアマネのアセスメント表なども提供しています。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化・終末期において可能なケアや対応を説明しております。入居後も状況の変化は毎月の報告書に記載し、状況次第では来訪して話し合いをもつなど、対応しています。その結果として主治医や訪看と共にチームで支援に取り組んでおります。看取り体制も完備しております。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、緊急連絡体制を整備し、契約した訪看ステーションは緊急の対応にも応じてくれます。又、職員の心肺蘇生講習・AED装置の設置及び訓練等を通じていつ、何時でも実践できるように努めています。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対応マニュアル整備に加え、地域全体で行われる災害・津波等の避難訓練にも職員が参加しています。管理者・職員は実際に地域の避難道を歩き、避難の際の問題点などを話し合っています。又、電気。水道などのライフラインが止まった時を想定して食事・排泄等をどのようにすれば良いかなど、実践訓練を行っています。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には入社研修時に人格尊重とプライバシーの重要性について、意識づけを図り、守秘義務についての誓約書を提出してもらっています。利用者への言葉使いや、声掛けにおいて充分注意して対応しています。しかしながら利用者への呼びかけはその人が受け入れやすい名前を選ぶこともあります。(同じ地域では同姓の場合もよくあります)		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者との関係性を大切にし、利用者が思いや感情を訴えやすいような関係性を築くようにしています。又、利用者の能力に応じた自己決定し易いような声掛けを基本としています。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の暮らしは決して無理強いすることなく、一人ひとりのペースに合わせて自由に過ごして頂く。例えば起床時間などもその日のその人のペースで、又、みんなで一緒に過ごす時間も作っています。他の利用者に迷惑のかからない事であれば基本的に自由です。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>服装や身だしなみは本人の希望を尊重し、必要に応じて化粧水乳液などの購入も支援しています。又、新聞の折込チラシをみて通販で購入される方もおられ、家族に了解を得るなど、適切に支援しています。訪問美容師による散髪やカットも行っています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日常の食事準備の一連の作業を共に行っています。旬の食材や地域の特産物を献立に入れたりして季節を感じてもらっています。コロナ中で外食の機会はなくなりましたが、デリバリーで握り寿司やハンバーガーなど希望があれば取り入れています。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量のチェック表を用いて個々の状態を見ながら必要量の確保ができるように一日量の把握をしています。量が分かりやすいように全員コップ、お茶碗等同じものを提供させてもらっています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、歯磨きはしてもらっています。自分で磨けない人は職員が介助し、その人に応じた口腔ケアを行います。義歯のある人は定期的に洗浄剤で除菌し、口腔内は歯科衛生士が適時みています。必要であれば歯科医院への受診も支援しています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表に記入し各自の排泄パターンを把握しています。オムツ使用や尿意のない方でもトイレに誘導し、排泄の自立に向けた支援をしています。又、状況を見て可能であれば積極的に段階的なオムツ外しも試みています。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事では野菜や海藻等工夫して摂ってもらうようにしています。散歩や室内で体を動かすレクリエーションをしたり、緩下剤の使用にあたり、かかりつけ医に排便状況を報告・相談しながら対応しています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>最低、1週間に2回は入浴できるように曜日を指定していますが、個々のその日の体調を確認したうえで入浴の声掛けをして実施しています。又、曜日にこだわらず、利用者が希望すればいつでも入浴できるように配慮しています。冬至には地域の方からの頂き物で柚子風呂に入ります。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床や就寝時間は利用者の生活習慣に合わせており、休息や睡眠をとれるようにしています。居間や自室でテレビを観られる方や編み物、読書をされる方など自分なりの過ごし方をされます。夜間の水分補給はペットボトルにお茶を入れて就寝前に配っています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個別ファイルに服薬内容の情報を添付、アイパッドにも記載されており、薬の変更、服薬後の症状の変化の記載事項があれば診療報告書や申し送りにより全職員がその内容の把握の徹底をしています。誤薬提供がないように現在のシステムを皆で考え実行しています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の生活歴や性格などを考慮し、日々の関わりの中で得意、不得意も見極め、家事その他の役割分担をお願いしています。嗜好品については毎日のおやつ提供以外にもご家族からの差し入れや利用者の要望も加えて準備させて頂いています。週に1度、移動販売車が来た時に嗜好品の買い物をする方もおられます。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>コロナ前には個々にご家族との外出・外泊もできていましたが、現在は自粛して頂いており、ご本人たちへの支援として近所の無人販売や鴨農法の田んぼの見学、込み合わない日時を選んでの洋服や趣味の物の買い物支援をしています。</p>		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居時に希望があればご家族の同意の上、ご本人に管理してもらっています。事務所でご家族から預かる場合もあり、能力に応じた支援等を行っています。又、ご本人の希望でATMまで同行する場合があります。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居時にご本人や家族の要望により携帯電話の所持をしている方もおられ、自由に連絡をとることができます。お手紙を家族や友人に書く方もおられ、暑中見舞いや年賀状も皆で書いたりします。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎朝、必ず居室の窓を開けて換気をし、室温・湿度の調整を行い、エアコンは定期的に業者による清掃も行っています。玄関ホールや居間には季節感を感じられるよう、観葉植物やツリー、リース等、職員と利用者で共に飾り付けを行っています。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれが居心地よく過ごせるように利用者間の関係性に気を配り、円滑な関係作りをしています。共用空間には独りになれたり、気の合った人同士で過ごせる空間を作っています。気候の良い時にはベランダで読書する方などもおられます。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にはご本人が使用していた馴染みの家具や子供、孫などの写真、色紙、花等が居室に飾られます。又、誕生日には職員からの色紙とメッセージが送られ、それらも飾っておられます。自分で制作した折り紙やリースの作品もあります。居室の電灯はLEDで明るさを調整できます。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行器・車いす使用の方も安全に移動しやすいようにローカの幅も広く、手すりも設置しており、洗面台、カウンター等個々の身体機能に合わせた危険防止に務め、それと並行して自立できるように工夫しています。又、トイレなども車いすでの使用介助もし易いように広く、位置的にも見守りがしやすいようにしています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない



64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない